

副甲状腺癌、副甲状腺摘出術不能または
術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症の
高カルシウム血症の治療で

オルケディア[®]錠を 服用されている患者さんへ

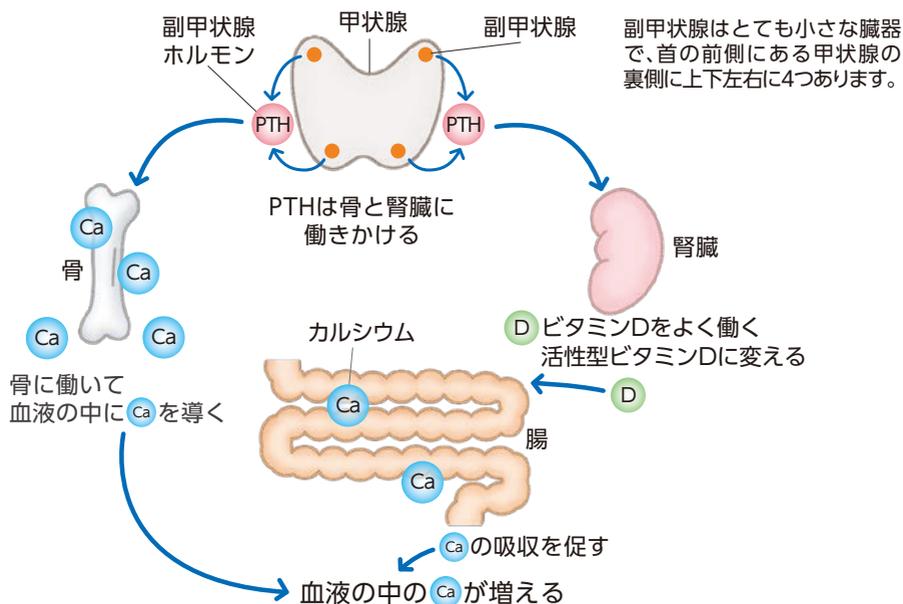


大切な注意です。必ずお読みください。

監修 虎の門病院 副院長 竹内 靖博 先生

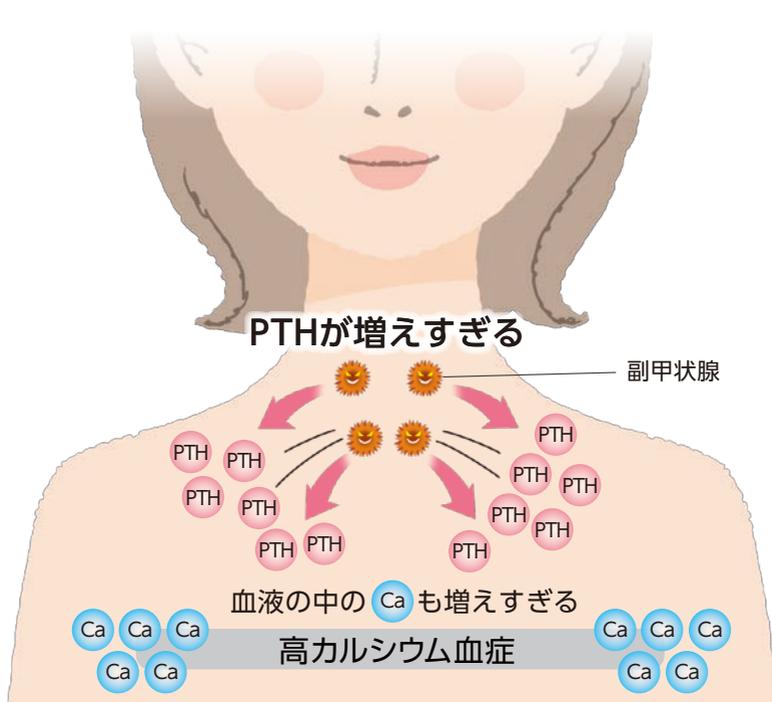
副甲状腺機能が亢進すると

- 副甲状腺からは副甲状腺ホルモン (PTH) が分泌されます。PTHは体の中のカルシウムとリンを調節する重要なホルモンです。
- PTHは骨と腎臓に働きます。PTHは腎臓でビタミンDをよく働く形の活性型ビタミンDに変えます。この活性型ビタミンDは腸でのカルシウムの吸収を促します。
- PTHはカルシウムの貯蔵庫である骨に働いて、骨を溶かすことにより骨中のカルシウムを血液の中に導きます。
- このような働きでPTHは血液の中のカルシウムを上昇させます。



副甲状腺癌や原発性副甲状腺機能亢進症に伴う高カルシウム血症とは

- 副甲状腺の異常によって、PTHが過剰に分泌されている状態が**原発性副甲状腺機能亢進症**です。
- PTHは、ほかのホルモンと同様に体に欠かせないホルモンですが、多すぎても体に害があります。
- 副甲状腺癌や原発性副甲状腺機能亢進症になると、副甲状腺の機能が亢進し、PTHが過剰に分泌されます。PTHが増えすぎると、血液の中のカルシウムも必要以上に増えてしまいます。血液の中のカルシウムが多すぎる状態を「高カルシウム血症」と呼びます。



PTH：副甲状腺ホルモン
Ca：カルシウム

- 高カルシウム血症になると、「疲労感」、「のどが渇く」、「食欲低下や便秘」、「イライラする」、「おしっこの量が増える」などの症状があらわれるほか、高カルシウム血症が続くと心臓への影響があらわれることもあります。

疲労感



食欲低下



のどが渇く

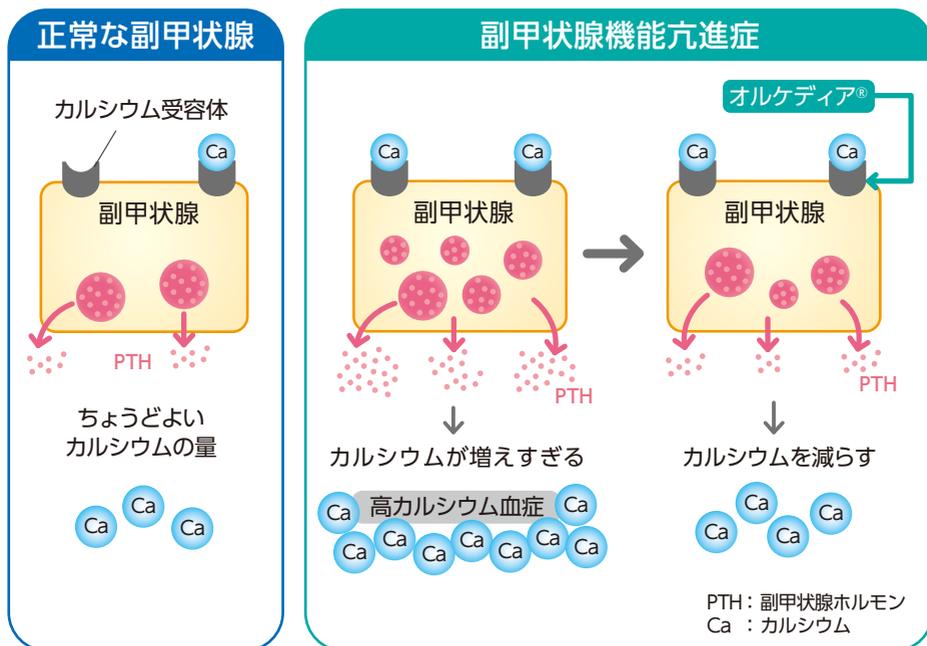


イライラする



オルケディア®錠 のはたらき

- 副甲状腺癌、副甲状腺摘出術不能または術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症の高カルシウム血症において、血液の中のPTHやカルシウムを下げるためのお薬がオルケディア®錠です。



オルケディア®錠

1mg



色：黄白色

2mg



色：淡黄色

4mg



色：黄赤色

オルケディア[®]錠の飲み方

■ このお薬の標準的な使用量と使用回数

副甲状腺癌における高カルシウム血症

副甲状腺摘出術不能または術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症における高カルシウム血症

開始用量: 1日1~2回、1回2mg

維持用量: 1日1~4回、1回2~6mg

※使用量や使用回数は病気の状態などによって違います。医師の指示どおりに使用してください。

※透析患者さん(二次性副甲状腺機能亢進症)の標準的な使用量と使用回数とは異なります。



■ 自分の判断でお薬を増やしたり減らしたりしないでください。必ず医師の指示にしたがってください。

■ 飲み忘れた場合には、気がついた時に、できるだけ早く飲み忘れた分(1回分)を服用してください。ただし、次の服用時刻が近い場合は飲み忘れた分をとばして、次の服用時刻に1回分の量を服用してください。決して2回分を一度に服用しないでください。

▶ 誤って多く服用してしまった場合は、低カルシウム血症があらわれる可能性があるため、すぐに医師に連絡してください。

■ 一緒に服用すると好ましくない作用(副作用)が強くてたり、効果が弱まるお薬があります。

▶ 他に飲んでいるお薬がある場合は、必ず医師・薬剤師へお伝えください。

次の人は、この薬を使用できません

- 妊娠中または妊娠している可能性がある



以下にあてはまる方は、 医師に相談してください

- 低カルシウム血症だといわれたことがある
- 肝臓が悪いといわれたことがある
- 授乳中である

以下の症状があらわれた方は、 医師に相談してください

- 吐き気、嘔吐
- 胃の不快感
- 低カルシウム血症※のような症状

※低カルシウム血症との関連が考えられる症状・検査異常

- 気分がすぐれない
- 意識レベルの低下
- 血圧が下がる
- しびれ
- 筋肉のけいれん
- 心電図の異常

病医院・薬局名